



2020年 + 1

東京2020大会におけるTDMの取組

2021年11月26日

東京都オリンピック・パラリンピック準備局

東京2020大会がもたらした価値

東京オリンピック

(7月23日～8月8日・33競技339種目)

東京パラリンピック

(8月24日～9月5日・22競技539種目)

世界中から
アスリートが参加

過去最多と並ぶ**205の国・地域**と**難民選手団**
合わせて選手約**1万1,000人**が参加

リオ大会を上回る**162の国・地域**と**難民選手団**
合わせて選手約**4,400人**が参加(選手数過去最多)

高いパフォーマンスを
発揮

世界新記録が**26個**誕生
※ボートの世界ベスト6種目を含む

世界新記録が**153個**誕生

史上最も多様性
あふれる大会

性的マイノリティー (**LGBTQ**) であることを明かして参加する選手の数が

過去最多の**182人**に(2016年リオ大会の3倍)

過去最多の**28人**に(2016年リオ大会の2倍)

日本選手団の
大活躍

過去最多の**総メダル58個**を獲得
(これまでの最多は2016年リオ大会の41個)

過去**2番目**の**総メダル51個**を獲得
(過去最多は2004年アテネ大会の52個)

東京2020大会の交通対策

交通需要マネジメント (TDM)

① 企業説明会の実施

説明会約600回、個別相談約3,800回(WEB含む)を実施し、人の流れ・物の流れについて混雑回避の取組を呼びかけ

② 2020TDM推進プロジェクトの推進

経済界・業界団体等の多様な主体が一体となり、大会時の交通混雑緩和を目指す取組を推進 (約5万社・910団体で構成)

③ 大会期間中の集中広報

交通混雑の緩和と感染拡大防止に向けた人流抑制など、多様なメディアによる集中的な広報を実施



日付	2021年8月7日(土)				
	6~9	9~12	12~15	15~18	18~21
オリンピックスタジアム	1人	1人	1人	1人	1人
東京体育館	1人	1人	1人	1人	1人
国立代々木競技場	1人	2人	3人	4人	5人
日本武道館	1人	1人	1人	1人	1人
東京国際フォーラム	2人	3人	4人	5人	6人
国技館	2人	2人	2人	2人	2人

各競技会場・繁華街の混雑状況の可視化

首都高速道路における料金施策

夜間の料金割引および日中時間帯の料金上乗せを実施
適用期間：7月19日(月)～8月9日(月)・8月24日(火)～9月5日(日)



交通システムマネジメント (TSM)

① 高速道路の交通対策

本線料金所の通行制限や、交通状況に応じて入口閉鎖、本線車線規制、JCT部での方向別規制を実施

② 一般道/競技会場周辺の交通対策

信号調整や駐車対策が一部で実施されたほか、進入禁止エリアや通行規制エリア、う回エリアを設置



③ 関係者輸送ルート等の設定

大会期間中、選手などの大会関係者が利用する関係者輸送ルートを設定

(関係者輸送ルート)

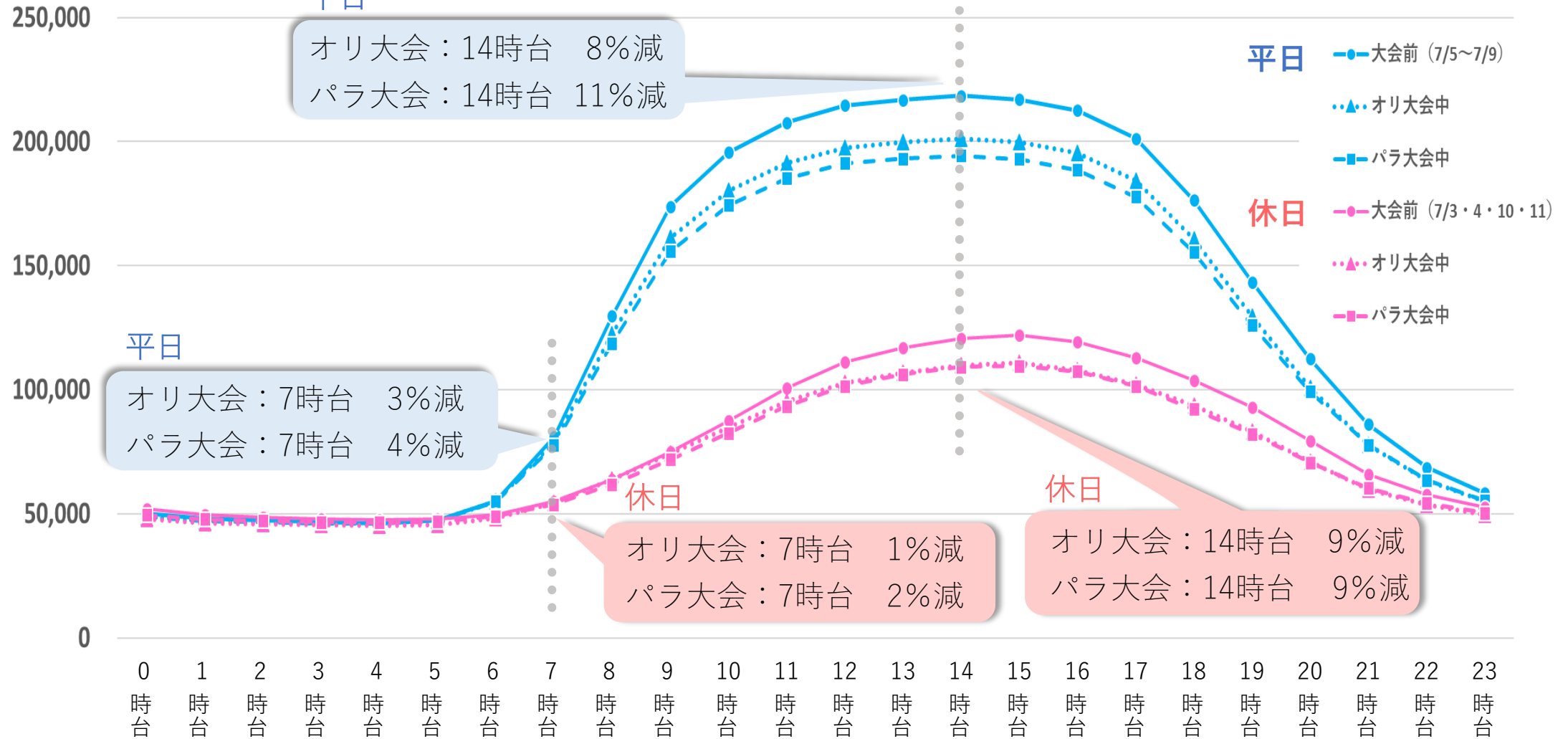
- ・大会ルート
- ・練習会場ルート/代替ルート



桜色のバスの看板や路面表示を設置

重点取組地区における滞在人口（時間帯別）

(/人〔500mメッシュ当たり〕)



(株)ドコモ・インサイトマーケティングの「モバイル空間統計[®]」データを利用し東京都で作成

※ 重点取組地区（競技会場等が集中し、道路・鉄道の混雑箇所を通過する交通が多い地区）

- ①新宿 ②渋谷 ③品川 ④浜松町・田町 ⑤新橋・汐留 ⑥大手町・丸の内・有楽町 ⑦八重洲・日本橋 ⑧神田・秋葉原・御茶ノ水 ⑨九段下・飯田橋
- ⑩番町・麴町 ⑪青山・表参道 ⑫赤坂・六本木 ⑬霞ヶ関・虎ノ門 ⑭晴海・有明・台場・豊洲・大井ふ頭 ⑮池袋 ⑯大崎

「都庁2020アクションプラン」の実施状況（都庁の取組）

取組内容

テレワーク・オフピーク通勤の実施

原則毎日テレワークを実施
やむを得ず出勤する必要がある場合には、オフピーク通勤（8時から10時までの出勤を回避）を徹底
※ 感染症対策、東京2020大会関連業務、ライフラインの維持等の都民サービスに従事する場合などを除く

備品やコピー用紙等の納品時期の変更

本庁や出先事業所において、実施期間中、事務用品・コピー用紙を納品しない

コピー用紙・ごみの削減

ペーパーレス化の推進、古紙等ごみの搬出前・後倒し、粗大ごみ回収時期の変更等により、ごみを削減
（大会時の目標：ごみ削減約4割）

都庁発注工事の調整

施工中の道路、上下水道等の工事において、車両の現場出入り時間の調整や、休工期の変更等を実施

庁有車利用の抑制

本庁や出先事業所で利用を控え、利用が必要な場合も高速道路等の利用を控える

実績

◆実施期間◆ テレワーク・オフピーク通勤：2021年7月19日から9月5日まで
その他：2021年7月19日から8月9日まで、8月24日から9月5日まで

次ページのとおり

納品回数を約4割削減（昨年度同時期と比較）
約2,300回 ⇒ 約1,400回
（うちコピー用紙納品数 約6,100箱 ⇒ 約3,500箱）

本庁のごみ排出量を約4割削減（昨年度同時期と比較）
（ペーパーレスの推進、水筒・マイカップの持参推奨、実施期間中は、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、シュレッダーごみ等を会議室等に一時保管）

期間中に施工中の約8割の工事で取組を実施
（車両の搬入回数（資材搬入等）の減、車両の出入り時間のコアタイム外（早朝・夜間等）への振替、工事の一時休止等）

本庁の庁有車利用を約4割削減（昨年度同時期と比較）
（オンライン会議への変更、出張時期の変更）

関係各所に共有し、柔軟で多様な働き方、3Rの推進、災害時や大規模イベント等に活用

都庁におけるテレワークの実施状況

対象月を選択



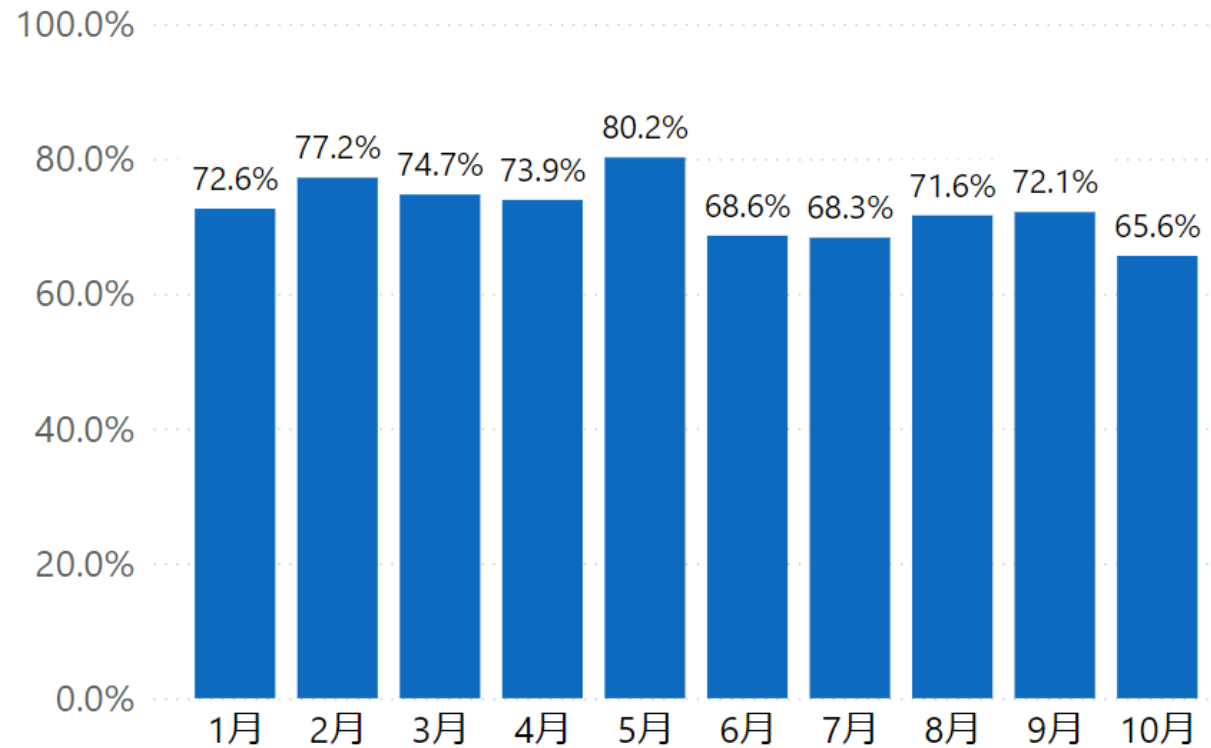
2021年11月24更新

テレワーク実施率

約 **72.1%**

(2021年9月)

実施率の推移



○対象 本庁（知事部局・企業局・公営企業局等）
○データ 対象期間の一日平均（速報値）

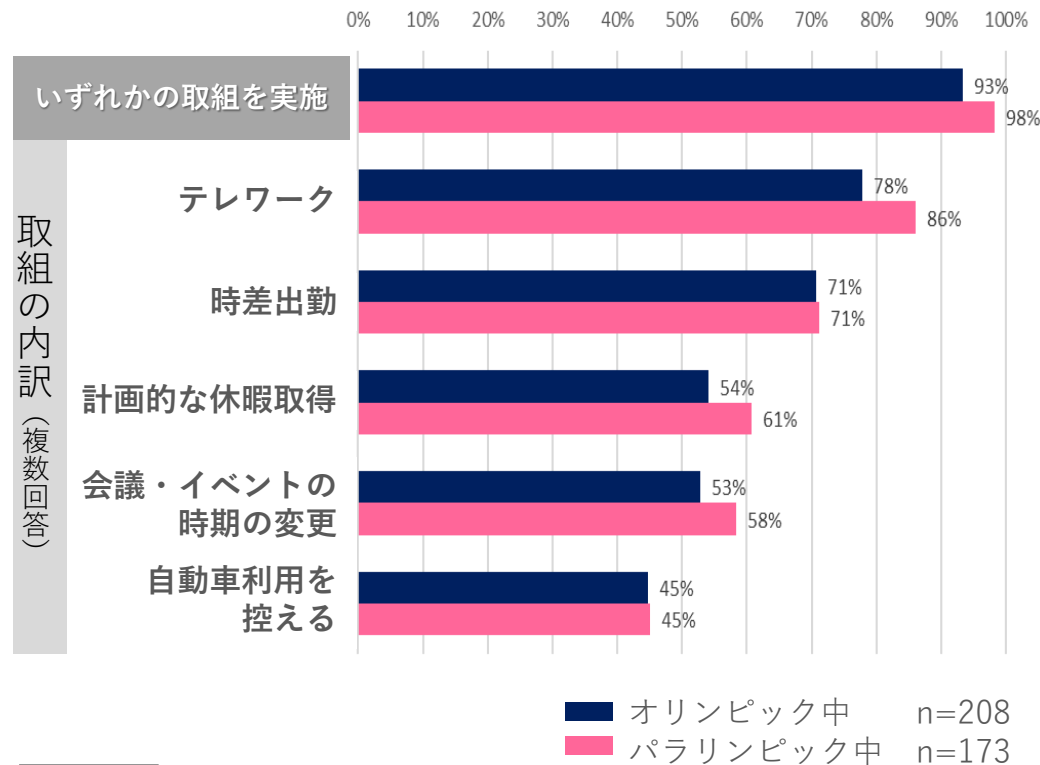
※備考
・感染症対策に従事する職員等を除く
・実施率にはテレハーフ等を含む
・実施率は各対象月の翌月末頃に更新予定

【出典】東京都総務局

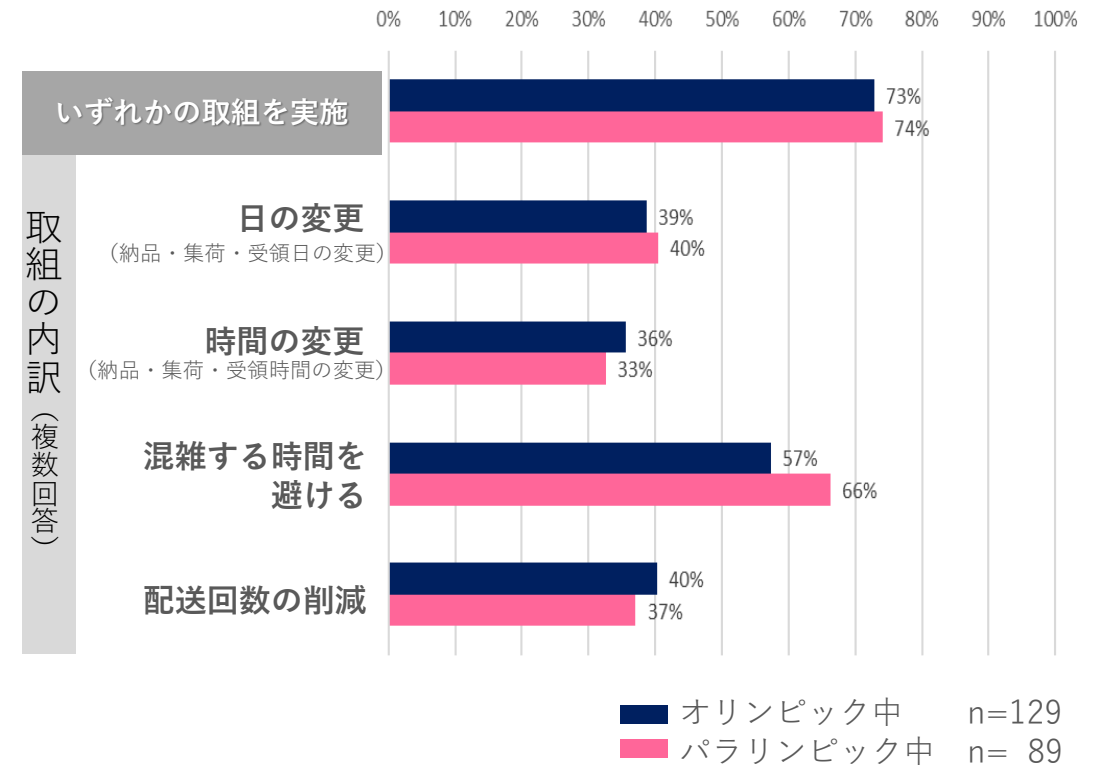
企業のTDMの取組

東京2020大会期間を通じて、交通量減少に向けて何らかの取組を実施したと多くの企業が回答

人の流れに関連した取組



物の流れに関連した取組



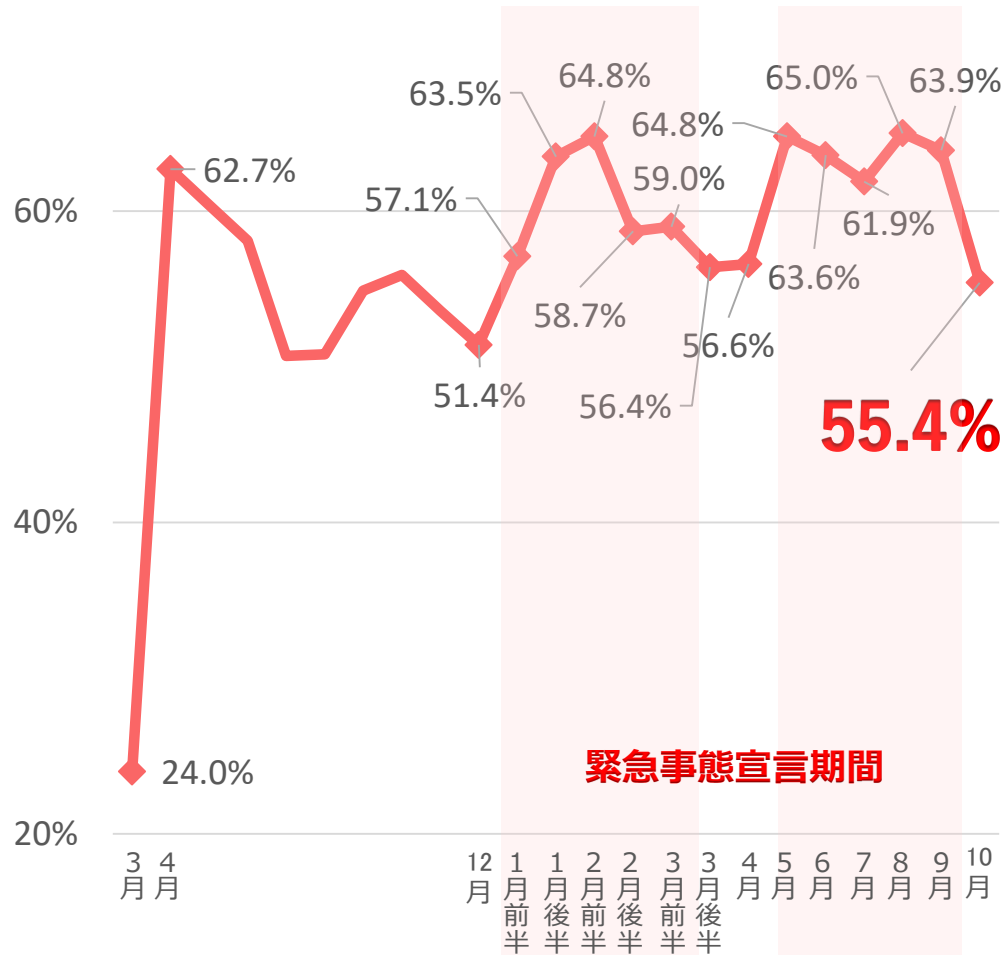
調査概要

- ◆調査期間：① 令和3年8月10日（火）～20日（金）（オリンピック終了後）／② 令和3年9月9日（木）～14日（火）（パラリンピック終了後）
- ◆アンケート対象者：企業（2020TDM推進プロジェクトHPに掲載、登録企業約5万社に対してメルマガで周知）

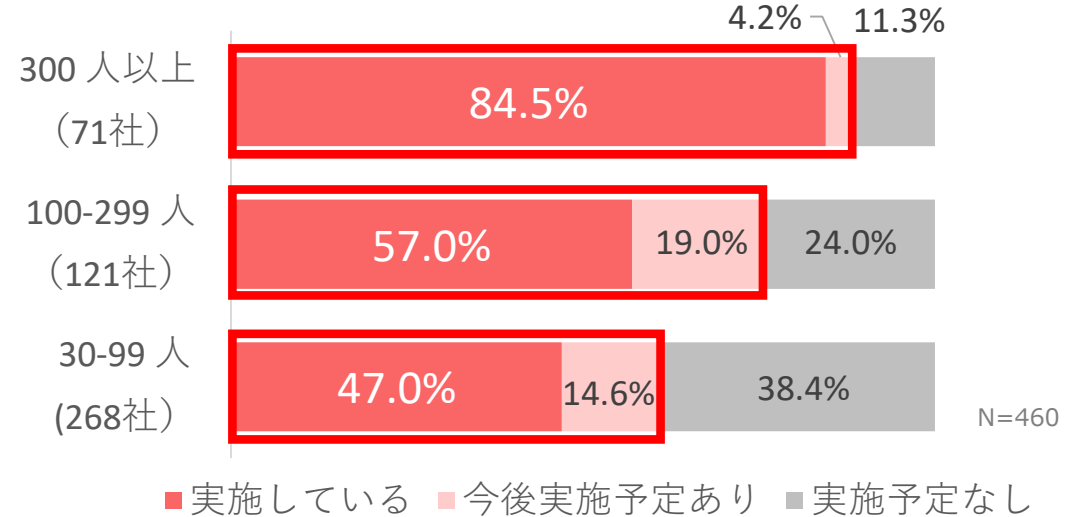
多くの企業や個人のご協力により交通量が減少したことで、交通マネジメントが適切に機能

都内企業（従業員30人以上）のテレワーク実施状況

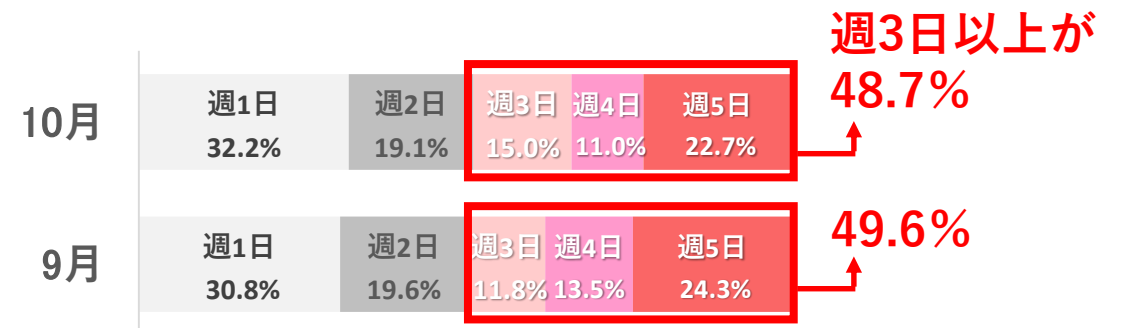
テレワーク実施率



従業員規模別実施率（10月）



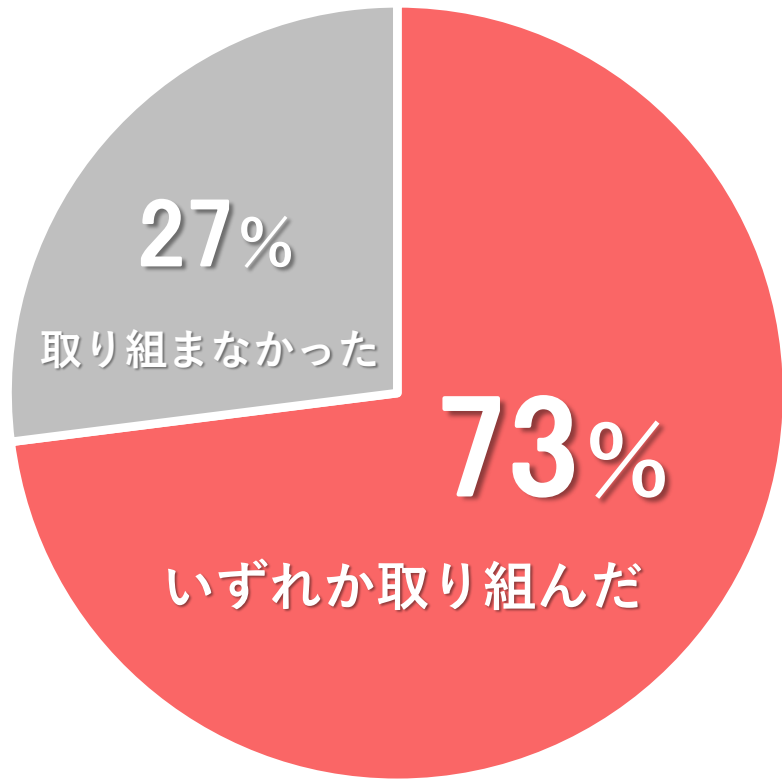
テレワークの実施回数



※小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は一致しない場合がある

都内23区での生活行動習慣のある1万人にアンケートしました！

Q 東京2020大会期間中にやっていた
混雑回避の取組は？

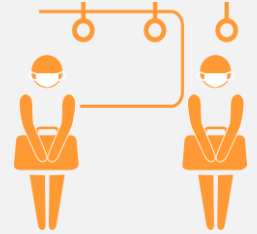


主な取組

テレワーク 45%



オフピーク通勤 44%



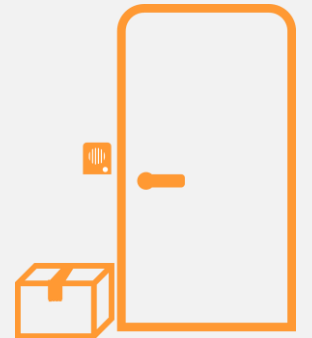
出勤日を調整 39%

事前に混雑情報をチェック 44%

計画的なネット注文 46%



置き配・宅配ボックスの利用 53%



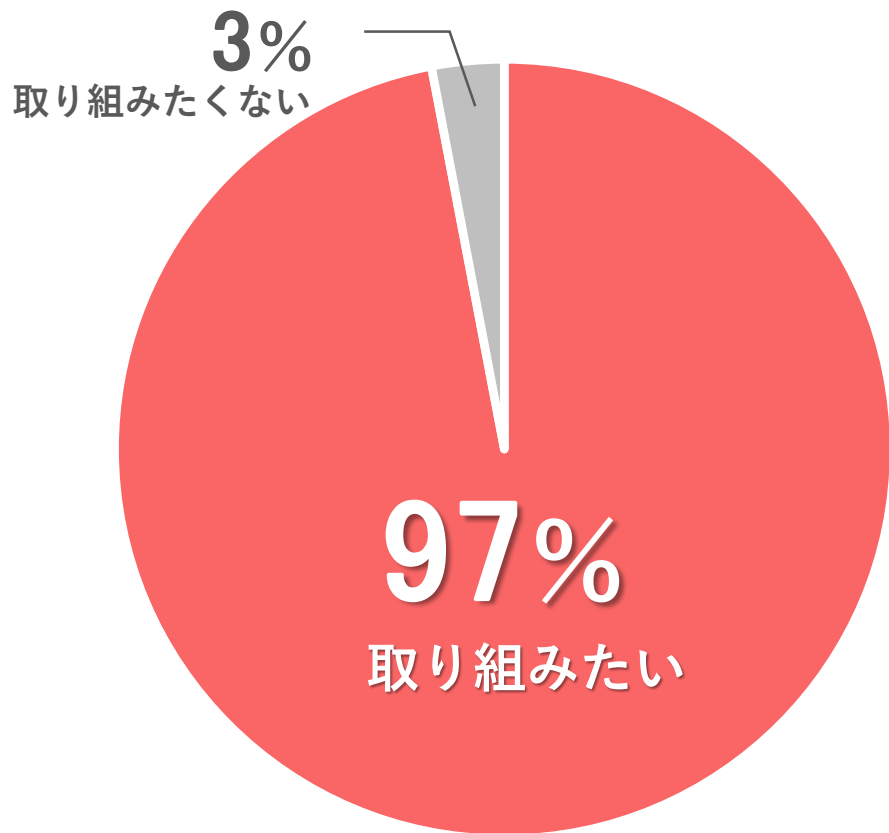
東京都調査

◆調査対象：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県南部在住「都内23区での生活行動習慣」のある男女15～69歳

◆調査期間：9月6日～9月12日

都内23区での生活行動習慣のある1万人にアンケートしました！

Q こうした混雑回避にもつながる取組は
今後も続けたいですか？



東京都調査

◆調査対象：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県南部在住「都内23区での生活行動習慣」のある男女15～69歳

◆調査期間：9月6日～9月12日 （※各取組の実施者対象、回答数（N）：テレワーク:2,936、オフピーク通勤:2,448、置き配・宅配BOXの利用:3,929）

テレワークを特に続けたい

1位	10代76.2%
2位	20代76.0%
3位	50代73.4%



オフピーク通勤を特に続けたい

1位	10代76.9%
2位	50代74.0%
3位	20代70.0%



置き配・宅配ボックスの利用を特に続けたい

1位	10代84.9%
2位	60代82.7%
3位	50代82.2%



都内23区での生活行動習慣のある1万人にアンケートしました！

みんなの声

空いている時間を活用出来れば
安心感にもつながるし
密になりにくい

東京・20代

テレワークや
時差出勤もどんどん
取り組んでいかないと
子供を預けて
働けない

千葉・60代

混雑回避は、
ストレス回避に
なっています

東京・40代



時差出勤や
テレワークは、
これからの社会において
必要なリスクヘッジ

茨城・30代

次回仕事をするときには
スムーズBizを
取り入れている会社に
就職したい

東京・50代

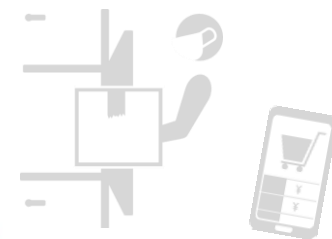


環境への負担も
減らすことができ
かつ自分も快適になる

千葉・20代

それぞれの描く
ライフスタイルを
尊重していける社会になる
きっかけになりそう

千葉・20代



スムーズBiz
Smooth Biz

続けることで、もっと暮らしやすい街に。

東京都は、皆さまに大会期間中にお取り組みいただいた、テレワーク、オフピーク通勤、物流の効率化などの取り組みをスムーズBizとして推進しています。スムーズBizは、快適な通勤環境や企業の生産性の向上を図り、すべての人が生き生きと働き、活躍できる社会を実現するための、新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルです。



ARIGATO

そして、
これからも。



東京2020大会を契機に取り組んでいただいた、スムーズBiz。
続けることで、もっと暮らしやすい街になっていく。

Since Tokyo 2020

テレワークの活用



オフピーク通勤



物流の効率化



感染症対策

